

大阪市立自然史博物館所蔵のゲンゴロウ類標本：
特に希少種および絶滅危惧種について

林 成多*・初宿成彦**

**On the specimens of Dytiscoidea deposited in the Osaka Museum of Natural
History, with special reference to the endangered and rare species
(Insecta: Coleoptera)**

Masakazu HAYASHI* and Shigehiko SHIYAKE**

Abstract: The specimens of Dytiscoidea deposited in the Osaka Museum of Natural History were investigated. Reports are made on the specimens of the endangered and rare species, mainly collected from Kinki District. The specimens throughout the 1920s to the 60s from Osaka and Hyogo Prefectures reveal the environmental situations before the rapid process of urbanization and pollution of habitat took place.

抄録：大阪市立自然史博物館に収蔵されているゲンゴロウ類の標本についての調査を行なった。本稿では主に近畿地方を産地とする、希少種および絶滅危惧種19種について報告する。これらの標本には大阪府や兵庫県産の1920-1960年代のゲンゴロウ類標本が含まれており、都市化によって生息地が汚染され消滅する以前の分布状況を読みとることができる。

Key Words: Coleoptera, Dytiscidae, Noteridae, endangered, Kinki district

1. はじめに

日本産ゲンゴロウ類には Phreatodytidae ムカシゲンゴロウ科, Noteridae コツブゲンゴロウ科, Dytiscidae ゲンゴロウ科に含まれる3科133種が知られている(森・北山, 2002)。すべての種が幼虫・成虫期共に水中生活を行う水生甲虫である。溪流などの流水域や地下水に生息する種も存在するが、大多数の種は止水域に生息する。近年、ゲンゴロウ類を含む水生昆虫の多くの種が絶滅の危機に瀕していると言われており、環境省が2000年に公表した動物レッドリストには22種のゲンゴロウ類が掲載されている。これは、生息環境の消滅や減少が大きく影響していると考えられる。また、各地の自治体が公表したレッドリストにも複数のゲンゴロウ類が

Contributions from the Osaka Museum of Natural History, No. 378 (Accepted March 31, 2003)

* 〒691-0076 鳥根県平田市園町沖の島1659-5 ホシザキグリーン財団
Hoshizaki Green Foundation, 1659-5, Okinoshima, Sono-cho, Hirata, Shimane 691-0076, Japan
E-mail: hgf-haya@green-for.jp

** 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館
Osaka Museum of Natural History, Nagai Park 1-23, Higashi-Sumiyoshi-ku, Osaka 546-0034, Japan
E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp

掲載されている。例えば、大阪府ではマルコガタノゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、シャープゲンゴロウモドキの3種のゲンゴロウ類がすでに絶滅し、ゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウの2種が絶滅の可能性のある「絶滅危惧I類」および「絶滅危惧II類」に指定されている（大阪府，2000）。しかしながら、各種の絶滅の危険性を評価するには、過去および現在の生息状況を知る必要があり、とりわけ過去の記録を検討するには同定の確実な採集記録や継続的な標本の蓄積が必要である。大阪市立自然史博物館には博物館独自で収集した標本類の他に、宝塚昆虫館・堺市立科学教育研究所からの移管標本や、故後藤光男・戸澤信義氏らより寄贈された貴重な標本が保管されている。これらの標本には兵庫県・大阪府産の1920-1960年代のゲンゴロウ類標本が含まれており、そのラベルデータからは過去の分布状況を読みとることが可能である。標本による記録は、誤同定や分類の変更があった場合に再同定が可能であり価値の高い資料である。

本論文では大阪市立自然史博物館所蔵のゲンゴロウ類標本の検討を行った結果、確認された105種の内、希少種および絶滅危惧種19種の標本について記録する。いくつかの都道府県から初記録となる標本も含まれている。

2. ラベルデータについて

ラベルの採集データは様々なスタイルで記述されており、日本語での記載の他にローマ字での記載やその両方を用いたものもある。また、地名を書く順番も様々である。そこで、綴りはそのまま写し、下記の順番で記述を行う：

標本数，地名，（標高 m），採集日，採集者名，[コレクション名]

なお、日本の地名は、都道府県名，市町村名，地名（字名，町名，池や川の名前など）で記述し、ローマ字の場合はその逆となる。同じ地名を表す異なるローマ字綴り（例えば、TakarazukaとTakaraduka）は、そのまま写した。また、日本語での地名，採集者名については、著者の判断で、ローマ字による記載を付した。

寄贈標本等にはコレクションラベルが付けられており、その略記を記述した：

[HAC] = H. Aoki Collection（青木浩コレクション）

[HYC] = H. Yamashita Collection（山下寿信コレクション）

[MGC] = M. Goto Collection（後藤光男コレクション）

[MNC] = M. Nakagawa Collection（中川護コレクション）

[NTC] = N. Tosawa Collection（戸澤信義コレクション）

[SSE] = Sakai City Institute of Science Education（堺市科学教育研究所移管標本）

[TIS] = Takaraduka Insectarium（宝塚昆虫館移管標本）

3. 標本記録

Noteridae コツブゲンゴロウ科

1) *Noterus angustulus* Zaitzev ヒゲブトコツブゲンゴロウ

国内では北海道と本州，国外ではロシアなどから知られている（森・北山，2002）。国内での産地の報告例は少なく，希少な種である。

北海道，新潟県およびロシア沿海州産の標本を確認した：

1 ex., 北海道苫小牧市植苗 (Uenae, Tomakomai City, Hokkaido) 22/23-vi-1995,

M. Hayashi leg.

1ex., 新潟県中条町山王 (Sannou, Nakajo-machi, Niigata Pref.) alt. 10m, 29-v-1998,

M. Hayashi leg. (林・作本, 1998で記録された標本)

1ex., 新潟県下田村吉ヶ平 (Yoshigahira, Shitada-mura, Niigata Pref.), alt. 480m, 20-vi-1995, M. Hayashi leg. (林, 1995で新潟県初記録として報告された標本)

1ex., Khanka Lake, SE coast, nr. Spassk-Dal'ny, WNW 20 km, Primorsky Krai, Russia, 13-viii-2001, M. Hayashi leg.

本種は水生植物の多い浅い止水域に生息する。普通種である *Noterus japonicus* コツブゲンゴロウに似ているため、これまで混同されてきた種であり、東日本産の標本の再調査が必要である。本州での生息状況には不明な点が多く、各地での分布調査が必要である。

2) *Canthydrus politus* (Sharp) ムツボシツヤコツブゲンゴロウ

国内では本州、四国、九州、南西諸島、国外では中国から知られている (森・北山, 2002)。
大阪府および和歌山県産の標本を確認した：

22exs., Shinodayama, Osaka-Pref., 2-iv-1961, M. Goto leg. [MGC]

1ex., Sumiyoshi, Osaka, 24-v-1931, H. Takiguchi leg. [TIS]

1ex., Sakaiishi, Osaka, 3-iv-1932, H. Takiguchi leg. [TIS]

2exs., Tomogashima, Wakayama, 14-vi-1959, I. Hiura leg.

本種は水生植物の多い浅い止水域に生息する。兵庫県青野ヶ原では現在でも多くの個体が生息している。大阪府 (2000) のレッドリストでは「情報不足」に指定されている。

Dytiscidae ゲンゴロウ科

3) *Allopachria flavomaculata* (Kamiya) キボシケシゲンゴロウ

日本固有種で北海道、本州、四国、九州から知られ、清流に生息するが生息地は局地的とされる (森・北山, 2002)。

山梨県、三重県、高知県産の標本を確認した：

1ex., Fujimotosuko, 15-vii-1960, M. Nakagawa leg. [MNC] 【山梨県初記録】

3exs., Hirakura, Mie Univ. Forest, 21-vi-1957, Zeni. Naruse leg. [MGC]

4exs., Zanoshta, Owase, Mie Pref., 2-xi-1958, Zen. Naruse leg. [MGC]

5exs., Yunoyama, Mie Pref., 5-viii-1957, H. Ichihashi leg. [MGC]

3exs., Araki, Saigo-cho, Oki, Dogo, 29-vi-1961, Y. Shibata leg.

4exs., Kuroson, Kochi-Pref., 14-vii-1956, M. Sato leg. [MGC]

1ex., Oike, Mt. Kurohime (?), 11-vi-1961, M. Nakagawa leg. [MNC]

これまで山梨県での記録はなく (森・北山, 2002), 富士本栖湖産の標本は山梨県での初記録となる。

4) *Hyphydrus laeviventris* Sharp ヒメケシゲンゴロウ

日本固有種で北海道、本州、四国、九州から知られている (森・北山, 2002)。

青森県、千葉県、新潟県、石川県産の標本を確認した：

4exs., 青森県西津軽郡車力村 (Shariki-mura, Nishi-Tsugaru-gun, Aomori Pref.), 16-viii-1992,

宮武頼夫 (Yorio Miyatake) leg.

1ex., 千葉県君津市田代 (Tashiro, Kimitsu City, Chiba Pref.), 15-viii-1989, M. Hayashi leg.

3exs., 千葉県君津市田代元清澄山 (Motokiyosumi-yama, Tashiro, alt. 180m, 15-viii-1989, 山下寿信 (Toshinobu Yamasita) leg. [HYC]

1ex., 新潟県中条町山王 (Sannou, Nakajo-machi, Niigata Pref.), alt. 10m, 29-v-1998, M. Hayashi leg.

1ex., 新潟県吉川町坪野 (Tsubono, Yoshikawa-machi, Niigata Pref.), alt. 200m, 12-vii-1998, M. Hayashi leg.

2exs., 石川県珠洲市石神長池 (Ishigaminagaike, Suzu City, Ishikawa Pref.), alt. 230m, 15-ix-1990, O. Tominaga leg. 【石川県初記録】

以下の標本は背面の光沢を欠き, subsp. *tsugaru* Nakane アラメケシゲンゴロウに該当する:

4exs., 青森県西津軽郡車力村 (Shariki-mura, Nishi-Tsugaru-gun, Aomori Pref.), 16-viii-1992, 宮武頼夫 (Yorio Miyatake) leg.

1ex., 千葉県君津市田代 (Tashiro, Kimitsu City, Chiba Pref.), 1-iv-1991, M. Hayashi leg.

これまで石川県での記録はなく(森・北山, 2002), 珠洲市産の標本は石川県での初記録となる。

5) *Hydrovatus yagii* Kitayama, Mori et Matsui ヤギマルケシゲンゴロウ

日本固有種で本州, 南西諸島から知られている (森・北山, 2002)。

兵庫県産のタイプ標本が収蔵されている。また, 西表島産の標本を確認した:

Holotype and 4 paratypes: 兵庫県加西市青野ヶ原(Aonogahara, Kasai City, Hyogo Pref.), 16-v-1992, 北山 昭 (Akira Kitayama) leg.

2exs., Iriomote Is.:竹富町高那 (Iriomote Island, Takana, Taketomi-cho, Okinawa Pref.) 21-xi-1996, M. Hayashi leg.

兵庫県 (1995) のレッドリストでは「Aランク」に指定されている (兵庫県, 1995)。

6) *Leiodytes kyushuensis* (Nakane) ナガマルチビゲンゴロウ (Fig. 1A)

日本固有種で岡山県犬島および九州での記録がある (森・北山, 2002)。

兵庫県および大阪府産の標本を確認した:

10exs., Takarazuka, Hyogo-Pref., 19-iv-1958, M. Goto leg. [MGC] (Fig. 1A) 【兵庫県初記録】

1ex., Sakaishi, Osaka, 3-iv-1932, H. Takiguchi leg. [TIS] 【大阪府初記録】

上記の標本は近畿地方だけでなく, 本州そのものから初めての記録となる。しかしながら, いずれも古い記録であり, 兵庫県・大阪府で再調査を行う必要がある。なお, 八木 (2000) は, 兵庫県から新たに記録される可能性のある種として本種をあげている。

7) *Nebrioporus nipponicus* (Takizawa) ヒメシマチビゲンゴロウ (Fig. 1B, 1C)

日本固有種で本州, 四国から知られている (森・北山, 2002)。流水性種で, 東日本ではシマチビゲンゴロウ類中もっとも普通にみられる種である。

兵庫県産の古い標本を確認した:

lex., Takarazuka, Hyogo-ken, 1~10-viii-1939. [TIS] (Fig. 1C)

lex., Mukogawa, Hyogo-Pref., 31-iii-1946, M. Goto leg. [MGC] (Fig. 1B)

lex., Kotoen, Hiogo, Japan, N. Tosawa leg. [NTC] (ラベルには日付が記されていない。しかし、戸澤コレクションの他の標本の記録からみて1920-1930年代と推定される)

上記の標本記録から、過去には兵庫県南部にも本種が分布していたことがわかる。しかし、現在ではこれらの地域から本種を発見するのは極めて困難である。兵庫県北部での記録はないが生息している可能性が高い。

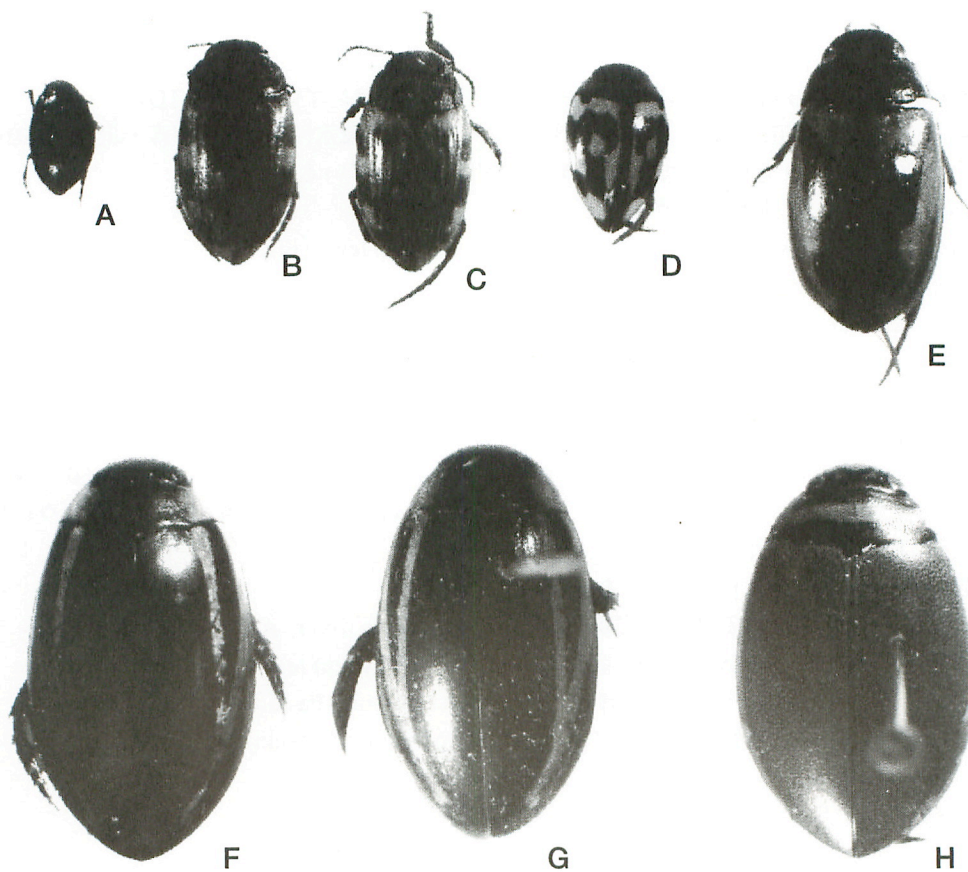


Fig. 1. Specimens of Dytiscoidea deposited in the Osaka Museum of Natural History (1)

A, *Leiodytes kyushuensis* (Nakane) ナガマルチビゲンゴロウ (Takarazuka, Hyogo, 19-iv-1958) ; B, *Nebrioporus nipponicus* (Takizawa) ヒメシマチビゲンゴロウ (Mukogawa, Hyogo, 31-iii-1946) ; C, ditto (Takarazuka, Hyogo, 1~10-viii-1939) ; D, *Japanolaccophilus nipponensis* (Kamiya) キボシツブゲンゴロウ (Toyotomi-onsen, Hokkaido, 24-viii-1977) ; E, *Platambus fimbriatus* Sharp キベリマメゲンゴロウ (Inagawa, Osaka, 30-xii-1931) ; F, *Hydaticus satoi* Wewalka スジゲンゴロウ (Mastusaka, Mie, 22-ii-1964) ; G, ditto (Awaji, 10-viii-1930) ; H, *Graphoderus adamsii* (Clark) マルガタゲンゴロウ (Kotoen, Hyogo).

8) *Hygrotes inaequalis* (Fabricius) キタマダラチビゲンゴロウ

旧北区に広く分布し、北海道産は subsp. *hokkaidensis* M. Satôとして区別されている。国内での分布は北海道の北部・東部に限られ、極めて局地的に産する（森・北山, 2002）。

北海道およびロシア沿海州産の標本を確認した：

Holotype and 1 paratype: Futatsuyama, Shibecha-cho, Kushiro, Hokkaido 22-vi-1967,
I. Hiura leg.

1 ex., 北海道釧路町細岡 (Hosooka, Kushiro-cho, Hokkaido) 31-viii-2002, M. Hayashi
leg.

1 ex., nr. Chernigovka NW 10 km, along R. Ilistaya, Chernigovka district, Primorsky
Krai, Russia, 12-viii-2001, M. Hayashi leg.

9) *Japanolaccophilus nipponensis* (Kamiya) キボシツブゲンゴロウ (Fig. 1D)

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州から知られ、希な流水性種である（森・北山, 2002）。環境省（2000）のレッドリストでは「準絶滅危惧」とされている。

北海道、福井県、三重県産の標本を確認した：

1 ex., Toyotomi-onsen, Hokkaido, 24-viii-1977, M. Sato leg. (Fig. 1D)

1 ex., Imogadaira, Imajo, Fukui, 10-ix-1961, M. Goto leg. [MGC] 【福井県初記録】

1 ex., Hirakura, Mie Univ. Forest, 21-vi-1957, Zeni. Naruse leg. [MGC]

これまで福井県での記録はなく（森・北山, 2002）、今庄町産の標本は福井県での初記録となる。

10) *Platambus fimbriatus* Sharp キベリマメゲンゴロウ (Fig. 1E)

国内では北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国から知られている（森・北山, 2002）。主に河川の中・下流域に生息し、*Platambus pictipennis* モンキマメゲンゴロウに比べて、産地は局地的である。

近畿地方産の標本は以下の通りである：

5exs., 滋賀県高島郡安曇川町安曇川河川敷 (Adogawa river, Adogawa-cho, Shiga
Pref.), alt. 90m, 25-ix-1993, 初宿成彦 (Shigehiko Shiyake) leg.

5exs., 京都府八幡市三川合流点御幸橋西側 (west of Goko-bashi bridge, Yawata city,
Kyoto Pref.), alt. 10m, 28-vi-1988, 大築正弘 (Masahiro Ohtsuki) leg. 【京都府初記
録】

3exs., Ikeda, Osaka, Japan, 6-xii-1931, N. Tosawa leg. [NTC]

5exs., Ohtsugawa, Osaka-Pref., 3-v-1958, M. Goto leg. [MGC]

1 ex., Inagawa, Osaka, 30-xii-1931, H. Takiguchi leg. [TIS] (図1E)

1 ex., Tomogashima, Wakayama, 1-x-1954, O. Sato leg.

近年、兵庫県や大阪府からの本種の記録は全くない。滋賀県では、安曇川や愛知川での生息が確認されている（森・北山, 2002；本報告）。同じ流水性種のモンキマメゲンゴロウに比べて下流側に生息するとされ（森・北山, 2002）、河川改修や水質汚染などの影響を強く受けているものと考えられる。八木（2000）は、本種がカワラバツタのように河川敷から姿を消しつつある種である可能性を指摘している。その点においても、京都府八幡市三川合流での本種の記録は京都府初記録であり、注目される。

11) *Agabus matsumotoi* M. Satô et Nilsson マツモトマメゲンゴロウ

北海道のみから知られる (森・北山, 2002) .

パラタイプが収蔵されている :

2exs (Paratypes): Atosanupuri, Tesikaga, Kushiro, Hokkaido, alt. 170m, 24-vi-1967,

I. Hiura leg.

12) *Hydaticus satoi* Wewalka スジゲンゴロウ (Fig. 1F, 1G)

国内では本州, 四国, 九州, 南西諸島, 国外では台湾, 中国, フィリピン, 東南アジアに広く分布するが, 現在では極めて希な種である (森・北山, 2002) . 環境省 (2000) のレッドリストでは, 最も絶滅の危険性の高い「絶滅危惧I類」とされている.

三重県, 奈良県, 淡路産の標本を確認した :

1ex., 水田ミゾ (stream of paddy field), Kuzuoka, Mastusaka C., Pr. Mie, 22-ii-1964,

Y. Shibata leg. (Fig. 1F)

1ex., Odaigahara, Naraken, Japan, 22-vii-1934. [TIS] 【奈良県初記録】

1ex., Ikuha, Prov. Awaji, 10-viii-1930. [TIS] (Fig. 1G)

国内において, 近年の記録が全くない種とされている (森・北山, 2002) . これまで奈良県での記録はなく (森・北山, 2002), 大台ヶ原産の標本は奈良県での初記録となる.

13) *Graphoderus adamsii* (Clark) マルガタゲンゴロウ (Fig. 1H)

国内では北海道, 本州, 九州, 国外では朝鮮, 中国から知られている (森・北山, 2002) .

近畿地方産の標本は以下の通りである :

1ex., Ohmata, Yoshino, Nara, 2-viii-1956, Y. Tsutsui leg.

1ex., Hattori, 10-viii-1949, S. Nakagawa leg. [MNC]

1ex., Mikuni, Osaka, (灯火), 4-viii-1948, S. Nakagawa leg. [MNC]

1ex., Sakai, Osaka, Kinki, 15-iv-1954, S. Sagimoto leg. [SSE]

1ex., Johokukoen, Osaka, 28-vi-1935, K. Yagi leg. [TIS]

1ex., Yodogawa, Osaka, 25-v-1935, O. Teranishi leg. [TIS]

1ex., Nagase, Osaka, 4-i-1932, H. Takiguchi leg. [TIS]

1ex., Nishi-hamadani, Sasayama, Hyogo, Japan, 31-vii-1953, Y. Shibata leg.

1ex., Kotoen, Hiogo, viii-1927, N. Tozawa leg. [NTC]

1ex., Kotoen, Hyogo, Japan, N. Tosawa leg. [NTC] (Fig. 1H) (ラベルには日付が記されていない. しかし, 戸澤コレクションの他の標本の記録からみて1920-1930年代と推定される)

近年, 大阪平野周辺では, 本種の記録はない. 上記の標本記録はかつて本種がこれらの地域に広く分布していたことを示している. 大阪府 (2000) のレッドリストでは「絶滅危惧II類」に指定されている.

14) *Cybister brevis* Aube クロゲンゴロウ (Fig. 2A)

国内では本州, 四国, 九州, 国外では中国, 朝鮮半島から知られている (森・北山, 2002) .

東京都および兵庫県産の標本は以下の通りである :

5exs., Tama-gawa, Tokyo, 16-vi-1935, H. Aoki leg. [HAC]

1ex., Mt. Rokko near Kobe, Hyogoken, Japan, 22-vii-1937 [TIS] (Fig. 2A)

1ex., Kotoen, Hiogo, Japan, N. Tosawa leg. [NTC] (ラベルには日付が記されていない。しかし、戸澤コレクションの他の標本の記録からみて1920-1930年代と推定される)

現在、本種は兵庫県南部では希な種である。

15) *Cybister tripunctatus orientalis* Gschwendtner コガタノゲンゴロウ (Fig. 2B)

本亜種は国内では本州、四国、九州、南西諸島、小笠原、国外では台湾、中国、朝鮮半島から知られている(森・北山, 2002)。環境省(2000)のレッドリストでは、最も絶滅の危険性の高い「絶滅危惧I類」とされている。

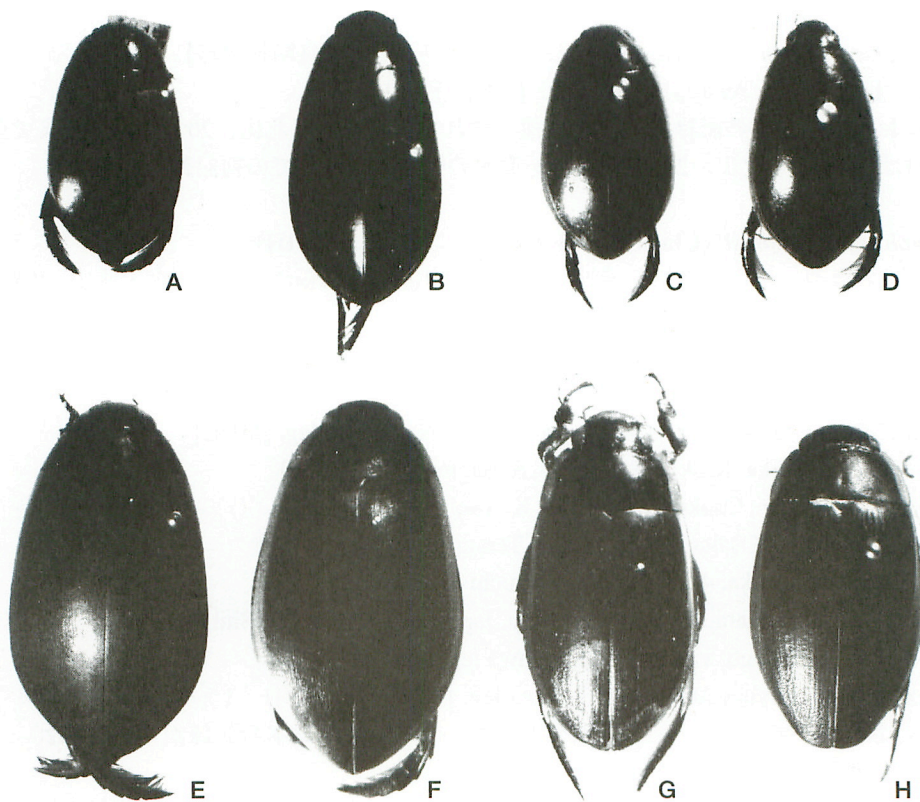


Fig. 2. Specimens of Dytiscoidea deposited in the Osaka Museum of Natural History (2)

A, *Cybister brevis* Aube クロゲンゴロウ (Mt. Rokko near Kobe, Hyogo, 22-vii-1937); B, *C. tripunctatus orientalis* Gschwendtner コガタノゲンゴロウ (Kotoen, Hiogo); C, *C. lewianus* Sharp マルコガタノゲンゴロウ (Sakai, Osaka, 15-iv-1954); D, ditto (友が島 [Tomogasima Island], 23-x-1966); E, *C. limbatus* (Fabricius) フチドリゲンゴロウ (Ishigaki, Okinawa, 3-x-1926); F, *C. japonicus* Sharp ゲンゴロウ (Yodogawa, Osaka, 20-v-1935); G, *Dytiscus sharpi* Wehncke シャープゲンゴロウモドキ (Yodogawa, nr. 枚方, Osaka, 2-xi-1943); H, ditto (Itabashi, Tokyo, 10-viii-1933).

東京都，三重県，大阪府，兵庫県，高知県産の標本を確認した：

29exs., Tama-gawa, Tokyo, 16-vi-1935, H. Aoki leg. [HAC]

2ex., 水田ミヅ(stream of paddy field), Kuzuoka, Mastusaka C., Pr. Mie, 22-ii-1964,
Y. Shibata leg.

1ex., Ikeda, Osaka, Japan, 6-xii-1931, N. Tosawa leg. [NTC]

2exs., Sakai, Osaka, Kinki, 15-iv-1954, S. Sagimoto leg.

1ex., Minoo, Osaka, 21-ix-1930, N. Tozawa leg. [NTC]

1ex., Kotoen, Hiogo, Japan, N. Tosawa leg. [NTC] (Fig. 2B) (ラベルには日付が
記されていない。しかし，戸澤コレクションの他の標本の記録からみて1920-
1930年代と推定される)

1ex., Kotoen, Hiogo, Japan, 23-xi-1931, N. Tosawa leg. [NTC]

1ex., Ashizuri, Kochi Pref., 9-x-1966, K. Kojima leg. [K. Kojima Collection]

近年，兵庫県や大阪府での記録は全くない。大阪府(2000)のレッドリストでは絶滅種，兵
庫県(1995)のリストでは「Aランク」に指定されている。

16) *Cybister lewsianus* Sharp マルコガタノゲンゴロウ (Fig. 2C, 2D)

本種は国内では本州，九州，国外では中国，インドシナから知られている。環境省(2000)
のレッドリストでは，最も絶滅の危険性の高い「絶滅危惧I類」とされている。

大阪府および和歌山県産の標本を確認した：

1ex., Sakai, Osaka, Kinki, 15-iv-1954, S. Sagimoto leg. (Fig. 2C)

1ex., Osaka-Sakai, 28-viii-1962, M. Murakami leg. [SSE]

1ex., Osaka, Japan, 1931, N. Tosawa leg. [NTC]

1ex., 友ヶ島(Tomogashima Island), 23-x-1966. (Fig. 2D)

現在，近畿地方では極めて希な種である。大阪府(2000)のレッドリストでは絶滅種，兵
庫県(1995)のリストでは「Aランク」に指定されている。

17) *Cybister limbatus* (Fabricius) フチドリゲンゴロウ (Fig. 2E)

本種は国内では南西諸島，国外では中国，台湾，インドネシア，フィリピン，インドに分布す
る。環境省(2000)のレッドリストでは，最も絶滅の危険性の高い「絶滅危惧I類」とされている。

石垣島産の標本を確認した：

1ex., Ishigaki, Okinawa, 3-x-1926 [TIS] (Fig. 2E)

現在，石垣島や西表島でもかなり希な種である(森・北山，2002)。

18) *Cybister japonicus* Sharp ゲンゴロウ (Fig. 2F)

本種は国内では北海道，本州，四国，九州，国外では朝鮮半島，台湾，中国，シベリアから
知られている(森・北山，2002)。環境省(2000)のレッドリストでは「準絶滅危惧」とされ
ている。

大阪府および兵庫県産の標本は以下の通りである：

1ex., 千提寺(Sendaiji), Ibaraki-C., Osaka Pr., alt. 300m, 13-iv-1980, K. Harusaw leg.

1ex., Yodogawa, Osaka, 20-viii-1934, K. Yagi leg. [TIS]

4exs., Yodogawa, Osaka, 20-v-1935, K. Yagi leg. [TIS] (Fig. 2F)

2exs., Yodogawa, Osaka, 25-vi-1935, K. Yagi leg. [TIS]

1ex., Ikeda, Osaka, Japan, 27-iii-1932, N. Tosawa leg. [NTC]

1ex., 東浜谷 (Higashihamadani), Sasayama, Hyogo, 3-vii-1953, Y. Shibata leg.

淀川産の標本は、かつて本種が大阪平野に生息していたことを示す記録である。大阪府（2000）のレッドリストでは「絶滅危惧I類」、兵庫県（1995）のリストでは「Aランク」に指定されている。

19) *Dytiscus sharpi* Wehncke シャープゲンゴロウモドキ (Fig. 2G, 2H)

日本固有種で本州から知られている（森・北山，2002）。環境省（2000）のレッドリストでは、最も絶滅の危険性の高い「絶滅危惧I類」とされている。

1ex., Yodogawa, nr. 枚方(Hirakata), Osaka-Fu, 2-xi-1943, M. Goto leg. (Fig. 2G)

2exs., Itabashi, Tokyo, Japan, 10-viii-1933 [NTC] (Fig. 2H)

淀川産の標本は大阪府で採集された最後の標本として知られている（日浦，1971）。大阪府（2000）のレッドリストでは「絶滅種」に指定されている。室町時代の長原遺跡（大阪市平野区）から上翅が発見されている（日浦・宮武，1983；初宿・寺井，2000）。

謝辞

本稿は、2002年12月21～23日に行われたゲンゴロウ類の勉強会と大阪市立自然史博物館の館蔵標本の整理作業により、明らかになったことを報告したものである。作業に参加し尽力いただいた野尻湖昆虫グループの岩井大輔，大築正弘，門脇浩明，杉浦真治，冨永修，永井敦子，成田行弘，西本雄一郎，宮武頼夫，六車恭子，米田友祐の各氏にお礼申し上げる。

引用文献

- 林 成多 1995. 新潟県から記録されたヒゲトコツブゲンゴロウとエゾコガムシ. 月刊むし (310): 8.
- 林 成多・作本達也 1998. 新潟県北部の砂丘に生息するゲンゴロウ. 月刊むし(334): 25.
- 日浦 勇 1971. ほろびゆく虫たち 1. ゲンゴロウモドキ. Nature Study 17(6): 278.
- 日浦 勇・宮武頼夫 1983. 長原遺跡から発掘された昆虫遺体. 大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告書—大阪市交通局地下鉄谷町線延長工事. 第31・32工区の発掘調査—: 200-206.
- 兵庫県 1995. 兵庫県の貴重な自然—兵庫県版レッドデータブック—. 兵庫県, 286p.
- 環境省 2000. 動物レッドリスト昆虫類. 平成12年4月12日公表.
- 森 正人・北山 昭 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京. 231 p.
- 大阪府 2000. 大阪府における保護上重要な野生生物—大阪府レッドデータブック. 大阪府, 442p.
- 初宿成彦・寺井誠 2000. 失われた自然の証人—シャープゲンゴロウモドキの発見—. 葦火 (89): 8.
- 八木 剛 2000. めざせ50種! 兵庫のゲンゴロウ. きべりはむし 28(2): 39-41.